

代表取締役
奥山 恭之

エナジービジョン

進化する雑草対策

第43回

——「絶えざる戦い」雑草対策のセオリーと新たな展開

これまでは「高コスト」が常識だったが、

野立て太陽光発電所は、「絶えざる雑草との戦い」と言っても良いだろう。特に梅雨明け頃から急速に伸びるので注意が必要だ。

発電所の雑草対策として主なものは次の3つがある。

- ①生えたら刈る
- ②除草剤で枯死させる、もしくは抑制する
- ③防草シートなどで生やさない

最もシンプルなのが、「①生えたら刈る」。雑草が生えて悪影響を与え始

めたら草刈りする、というもある。

エリアや雑草の種類にもよるが、年間2〜3回は必要になることが多い。一方でコストが結構掛かること、ケーブル切断やパネルを傷つける危険性が高いこと、な

また雑草によって薬剤の種類や散布方法、時期などを適切にコントロールしなければ効果が出にくい。うまく使いこなすには知識の習得が欠かせない。

最近の主流は「②除草剤で枯死させる、もしくは抑制する」という手法だろう。年に2回程度、除草剤を散布することで雑草をコントロールできる。手間、コストとも①よりは有利だが、周囲に農地があるなど状況によっては使用できないこと

「③防草シートなどで生やさない」というのは、雑草との戦いを最終させる最善策ではあるが、これまで初期費用が高すぎるとして積極的に使われていない。クオリティを優先する施工店は活用する傾向があるが、残念ながら大勢では

雑草をコントロールできる。手間、コストとも①よりは有利だが、周囲に農地があるなど状況によっては使用できないこと

「③防草シートなどで生やさない」というのは、雑草との戦いを最終させる最善策ではあるが、これまで初期費用が高すぎるとして積極的に使われていない。クオリティを優先する施工店は活用する傾向があるが、残念ながら大勢では

雑草を生えて悪影響を与え始

ただ、ある防草シート

メーカーが、「10年保証&7年リース」を打ち出したことで、高い初期費用というデメリットは解消できる見通しだ。

例えば、低圧発電所で防草シート敷設に120万円掛かったとして、10年保証がついているので10年間雑草対策に追加のコストは不要。ならば15年くらい経過しても十分な性能を保持していた、という実績がある」と強気だ。仮に15年使えるなら年間8万円しか掛からないことになる。

商品の進化で雑草対策の序列が変わる可能性も



実際は支払いが17万円程度になる。ただし支払い終了後の8〜10年目までの3年間は支払い0円でも保証は効く。また10年以降保証は切れるが、すぐに使えなくなるというものでもないと思われる。

初期費用の高さから敬遠されがちだった防草シートだが、売り方の工夫で新しい商品として進化した、と言って

太陽光

雑草対策のこの例からも分かるように、太陽光発電のO&Mを支える要素技術は日進月歩。「昨日の常識は今日の非常識」になることを想定しつつ、常に最新情報に目配せしておきたいところだ。